全学共通履修科目 日本語表現

社会を生き抜く力となる「日本語力」を鍛え、学生一人ひとりの可能性を広げる。

愛知淑徳大学は、学生たちの10年先、20年先を見据え、全学共通履修科目「日本語表現」を開講。社会を生きる力としての日本語力を備えた人材の育成に全学を挙げて取り組んでいます。

文学部での実績をふまえ「日本語表現」を全学展開

小倉　精確な日本語で「考え」、「理解し」、「表現する(伝える)」スキルを磨くことは、コミュニケーション力、情報分析力、論理的思考力、そして主体的な発信力を養うことにもつながります。その確信をもって、２０１０年に全学共通履修科目「日本語表現」を開講しました。中でも「日本語表現Ｔ１」は、全学必修科目。愛知淑徳大学での学修の根幹をなす基幹科目のひとつとして位置づけられています。

外山　社会生活において、自分の思いを伝え、他人の思いを確実に受け止めるには、言葉が必要不可欠です。伝えたいことを言語化する日本語力を磨くことが、生きる力の獲得にもつながるはずです。

小倉　こうした観点で学生の日本語運用能力の向上をめざすようになったのは、約10年前。「学生一人ひとりに、社会を生き抜く力となる日本語力を身につけてほしい！」という一心で行なった、文学部での日本語教育に関するさまざまな試みが出発点でした。その成果をもとに、大学全体に日本語教育の必要性を強く訴え続けました。外山先生にもご尽力いただきましたね。

外山　文学部で「実践日本語表現法」が開講された２００４年度から、試行錯誤の日々でした。「読む・書く・話す・聞く」という基礎力、論理的な思考力を高めるために、学生の反応や成長を確かめながら授業内容を改善し続けました。そうした意味で今の「日本語表現」科目は、その礎を学生と共に築き上げたと言っても過言ではありません。

全学日本語教育部門
講師 森本俊之

専門：言語学
2000年 名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程満期退学
2009年 愛知淑徳大学文学部講師
2010年 愛知淑徳大学全学日本語教育部門講師
交流文化学部、ビジネス学部の「日本語表現T1」「日本語表現T2」を担当。

全学日本語教育部門
准教授 外山敦子

専門：日本古典文学
2003年 愛知淑徳大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了
2006年 愛知淑徳大学文学部講師
2010年 愛知淑徳大学全学日本語教育部門准教授
文学部の「日本語表現T1」「日本語表現T2」を担当。

全学日本語教育部門長・文学部長
教授 小倉斉

専門：日本近代文学
1977年 早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了
1998年 愛知淑徳大学文学部教授
「日本語表現A3」を担当。文学部の授業やゼミにおいても学生の日本語力向上に力を注ぐ。

学生が自ら学び取る授業スタイル

小倉　大学全体として日本語運用能力の向上に対する意識が高まった2009年度、オリジナルテキストを作成するなど、全学展開を見据えた試みを文学部で積み重ね、「日本語表現」は全学部へと広がりました。

森本　大学だけでなく、学生自身も、日本語を学習する必要性を感じていると思います。だからこそ、「日本語表現」の授業で心がけているのが、答えを教えない指導。たとえば、文法的に正しくない、言葉づかいが適切でない、論理的に筋が通っていない文章を学生が書いたとき、修正の指示を与えるのは簡単です。しかし、それでは彼らの力は高まりません。よりよい表現を自ら模索する経験が、確かな文章力、思考力を育てるのです。もどかしくはありますが、学生たちが自力で発見するよう見守る姿勢を大切にしています。

表現スキルを体系的に学ぶ3段階9科目

小倉　「日本語表現」科目では、日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を体系的・段階的に学ぶために、基礎、応用、発展の3段階にわたる9科目を用意しています。学期・年度ごとに授業やテキストの内容を細かく見直し、学生たちの力を効果的に伸ばしていけるよう改善しています。

外山　基礎は全学必修の「日本語表現T1」。特に文章力の育成をめざし、「事実を正確に分かりやすく説明する力」と「論理的に自分の意見を述べる力」を身につけることに力を入れています。次のステップとして、「日本語表現T2」で日本語力を総合的に養います。この2科目で大学生として身につけておきたい基礎力を鍛えます。それ以降は分野別。学生一人ひとりの興味やめざす進路に応じて、身につけたい表現スキルを学ぶことができます。

「日本語表現」科目の全体像

レベル1〈基礎〉
全学必修　1年前期＊
■テクニカルジャパニーズ
大学の学修に欠かせない文章力を身につける。
日本語表現T1

◀

レベル2〈応用〉
文学部・メディアプロデュース学部は必修、それ以外は選択　1年後期＊
■テクニカルジャパニーズ
日本語の「読む・書く・話す・聞く」技術を総合的に身につける。
日本語表現T2

◀

レベル3〈発展〉
選択　2ー4年

■アカデミックジャパニーズ
レポートの書き方やディスカッションの方法など、学術的な表現スキルを学ぶ。
日本語表現A1〈ライティング〉
日本語表現A2〈スピーキング〉
日本語表現A3〈リーディング〉

■ビジネスジャパニーズ
敬語の使い方やビジネス文書の書き方など、社会人に必要な表現スキルを学ぶ。
日本語表現B1〈ライティング〉
日本語表現B2〈スピーキング〉

■クリエイティブジャパニーズ
エッセイの書き方、朗読、読み聞かせなど、豊かで創造的な表現スキルを学ぶ。
日本語表現C1〈ライティング〉
日本語表現C2〈スピーキング〉

＊一部学部は、開講期が異なります。

全学共通履修科目

日本語表現

早川元将さん

文学部
国文学科 2年
「日本語表現T1」「日本語表現T2」「日本語表現A3」を履修。

小椋愛子さん

メディアプロデュース学部
メディアプロデュース学科 1年
「日本語表現T1」「日本語表現T2」を履修。

廻彩乃さん

心理学部
心理学科 1年
「日本語表現T1」「日本語表現T2」を履修。

「書き言葉」を究めることは、思考力を高め、生きる力を育むこと。
日本語教育を、人間教育にもつなげていきたい。
言葉を学ぶことで、どの場面でも通用する力を身につける。

小倉斉　外山敦子　森本俊之

「日本語表現T1」で文章力、思考力を磨く

森本　全学必修の「日本語表現T1」を受講して、皆さん、いかがでしたか？

廻　不適切な文章を適切な文章に直すという課題に数多く取り組んだため、普段、目にするさまざまな文章を批判的に見るようになりました。だからこそ、多様な表現方法も発見でき、言葉に対する意識が高まりました。

小椋　私は、作成した小論文を学生同士で添削し合ったことが、とてもいい経験になったと感じています。自分では意識していなかった文章のクセなどに気づくことができました。

早川　私も学生同士での添削が、最も印象に残っています。他の人が書く文章を読み、推敲する力が高まりました。さらに「こういう表現もあるのか！」などの発見も多くあり、興味深く取り組むことができました。

青山　他の人の文章を添削してみると、発見がたくさんあります。私は、人に見せることを意識し、客観的な目をもって読み返しながら文章を書くことが大事だと実感しました。

小倉　皆さん、我々教員が期待していた通りに学んでいますね。嬉しい限りです。文章を書く上で重要なことは、相対化。「日本語表現T1」では自己中心的な文章ではなく、他者への伝わりやすさ、読みやすさを意識した文章が書けるようになることをめざしています。また、文章力だけでなく思考力も高められるよう、小論文作成に力を入れているのがこの授業の特長でもあります。

青山　「紙の辞書と電子辞書ではどちらがいいか」というテーマの小論文作成が一番印象に残っています。紙の辞書だとわからない言葉をマークしながら使えるから勉強になる、という内容で書いたのですが、その小論文の作成中、自分が使っていたのは電子辞書（笑）。自分自身の矛盾に、客観的に気づ

青山裕紀さん

人間情報学部
人間情報学科 2年
「日本語表現T1」「日本語表現T2」「日本語表現A3」「日本語表現B1」を履修。

「日本語表現」科目で磨いた日本語力を、10年先、20年先に、社会でコミュニティを築く力に繋げてほしい。

いた瞬間でした。

森本　おもしろい経験ですね。相対化は文章力だけでなく、思考力の向上にも役立ちます。だから「日本語表現T1」では、思考を深め、発想を広げるきっかけとなるよう、さまざまなテーマの課題を用意しています。

興味や目標に合わせて日本語力をさらに高める

廻　私は小論文作成を通して、自分がいかに勢いだけで文章を書いていたのかに気づきました。「書き言葉」と「話し言葉」を混同していた部分もあったと思います。今は立ち止まって、文章の材料となる自分の考えや情報をしっかり固めてから書こうと意識するようになりました。

小倉　大切なことに気づきましたね。「書き言葉」に精通するということは、立ち止まって言葉とじっくり向き合うこと。だから思考力も高まります。

早川　私は2年生になってから、さらに日本語力を高めようと「日本語表現A3」を受講しました。速読を通して、文章の主旨を素早く読み取る力が鍛えられたと思います。その成果のひとつとして、「愛知淑徳大学図書館〈書評〉大賞」で大賞を頂くことができました。

森本　「日本語表現A（アカデミックジャパニーズ）」は、大学での学術的な日本語表現スキルを学ぶというのが目的ですが、これは大学を出てからも必要とされる力です。ディスカッションなどのさまざまな表現スキルを実践的に学べるため、適切な言葉づかいが求められる、あらゆる場面で通用する力を身につけられますよ。

小椋　できることならすべての「日本語表現」科目を履修したいですね。私はコピーライターをめざしているので、今後「日本語表現」の選択科目に意欲的にチャレンジし、特に社会を批判的に見る力、的確な言葉で伝える力を磨きたいと考えています。

人と人の心をつなぐのが言葉の力の真髄

外山　皆さんの学ぶ意欲に応えられるように、これからもさらに「日本語表現」科目を充実させていきます。具体的には、表面的な表現テクニックだけではなく、表現する中身である考えや思いを引き出し、深めていくことにも力を入れていきたい。日本語教育にとどまらず、人間教育にもつながるような科目をめざしていきたいと考えています。

小倉　私は先日、NHKの元アナウンサーによる朗読を聴きに行きました。心を込めて読み上げられる言葉の数々に思わず涙し、美しい言葉は人を感動させるものだと改めて痛感しました。こうした、人の心に響く言葉を生み出すためには、数多くの美しい言葉、素晴らしい文章に触れることも必要でしょう。「日本語表現」科目でも、素敵な表現に触れる機会を可能な限り多く設けたいと思います。

　学生の皆さんには、「人と人をつなぐ」という言葉の真髄を意識しながら、「日本語表現」科目を通して10年先、20年先に活きる力を養ってほしい。その学びが、生きる力を育むことにもつながると、我々教員は確信しています。